

# 平成23年度実績報告

高専番号:

24

高専名:

鳥羽商船高等専門学校

	各高専 平成23年度年度計画(4月提出)	平成23年度実績報告	確認事項 (1/30付通知)
<p>【1. 教育に関する事項】 (1) 入学者の確保(学生募集活動、女子学生確保、入試方法の改善等)</p>	<p>○学生募集活動 ①中学生と保護者並びに進路指導教員を対象に、本校の特色、教育内容、入試制度等を説明する「進学説明会」を2回実施する。また、中学校主催の「進学説明会」等に参加し、本校の特色等の説明を行うとともに、中学校からの要望等の把握・分析を行う。 ②工業系学科については、学生の大多数を占める伊勢市以南での受験生確保を強力に進めるために、入試広報室を設け、積極的に中学校と接触するとともに、学習塾関係者、保護者へのPRに努める。 ③県外の受験希望者のいる地域(東京、名古屋、大阪)及び県内最寄校受験地として鈴鹿において学力検査を実施する。 ④商船学科については、船主協会、全日本船舶職員協会、航海訓練所等の海事関係団体との連携のもと、全国より受験生を集める活動を継続実施する。(横浜・福岡・神戸) ⑤四日市港や名古屋港で毎年開催される港まつりに参加して練習船鳥羽丸を公開し、本校のPRに努める。 ⑥中学生を対象とした広報用パンフレットの内容を検討し、よりPR効果の高いものに改訂する。また、進学情報誌等も活用したPRに努める。 ○女子学生の確保 ①高度化再編検討委員会及びWGにおいて、教育改革を行うことを優先した、適切な新学科構想、学科再編構想等の本校将来構想の方向性について検討する(女子学生の志願者増が図れる学科の検討を含む)。</p>	<p>○学生募集活動 ①「進学説明会」(8月)を2日間開催し、中学生196名、保護者112名、進路指導教員23名、合計331名の参加があり、前年度比71名増加した。 また、南勢地区各中学校主催「進路説明会」(24校)に参加した。中学校からの要望・生徒からのアンケートを纏め、教務委員会で分析を行った(12月)。 ②入試広報室が中心となり、春季学生募集PRとして、近隣の中学校(鳥羽・伊勢・志摩地域重点30校)に巡回PRを実施した(6月)。秋季学生募集PRとして、県内・県外の中学校151校に巡回PRを実施(10月・11月)した。 さらに、海学祭(11月)において「学校見学会」を実施し、練習船、実験室の公開と併せて、各学科ごとの個別相談を実施し、36名の参加者があった。11月23日に「進学相談会」を実施し11名の相談があった。また、学習塾関係者を対象とした説明会を開催し16名の参加があった。 結果として、本校を第1希望とする推薦選抜、体験学習選抜受験生が前年度比29名増加した。また、学力選抜においても低学力層の受験生が無くなり、本校の底上げが確実に進んでいる。今後は高学力者受験生増加が課題である。 ③昨年度と同様に、県外の受験希望者のいる地域(東京、名古屋、大阪)及び県内最寄校受験地として鈴鹿工業高専において学力検査を実施した。なお、鈴鹿工業高専での受験者は、昨年度の3名から13名になり、人口が多い三重県北部からの受験生が増加した。 ④「国立高等専門学校(商船学科)5校合同進学ガイダンス」を開催した。【横浜(7/16)/福岡(7/18)/神戸(7/30)、参加者:中学生・保護者・教員 142名】。これらの効果として、商船学科のみならず工業系学科の県外受験生も増加した。 ⑤四日市港港まつりに参加し、練習船の一般公開・体験航海に380名の見学者があった(8月)。また、名古屋港での練習船公開事業に参加し、一般公開・体験航海に833名の見学者があった(11月)。 ⑥中学生を対象とした広報用パンフレット(学校案内)を見直し、在学生の記事、写真(女子学生を含む)を多くするなど、受験生視線でPR効果の高いものに改めた。 ⑦眺望改修計画を策定し、居室4室を増やした。また、居住環境の改善を図るため、エアコン整備方針を推進し、納入業者を決定した(平成24年5月末の完工予定)。 ⑧学校案内DVDを作成し、県内中学校(151校)及び学校公開事業等において配付した。</p>	
	<p>○入試方法等の改善 ①各中学校の志願状況を分析し、志願者数の少ない中学校に対してPR活動を高めるなどの検討を行う。また、近隣の県立高校への志願者、入学者数等について調査・分析する。</p>	<p>○女子学生の確保 ①高度化再編検討委員会及びWG並びに鈴鹿工業高専と本校との連携強化推進委員会において、本校の将来構成について検討を行った。(女子学生の志願者増が図れる学科の検討を含む)。 ○入試方法等の改善 ①各中学校の志願状況を分析し、志願者数の少ない中学校に対してPR活動を高めるなどの検討を行った。また、近隣の県立高校への志願者、入学者数等の追跡調査を教務委員会で実施した(3月)。追跡調査の結果、入学後の成績は調査書の成績との相関が強いことが判明したので、学力選抜における調査書成績の割合を2倍と改めた。</p>	

<p>(2)教育課程の編成(学科再編、大括り化・コース制の導入、専攻科の充実等)</p>	<p>○学科再編 ①鈴鹿高専との高度化再編を視野に入れた学科構成の見直しや連携事業の内容・方法に関する検討を進める。 ○専攻科の充実 ①専攻科の教育設備等の充実を図り、教育環境の向上を図る。</p>	<p>○学科再編 ①科学技術の高度化と地域産業構造等を考慮した学科構成と教育課程編成について、鈴鹿工業高専と本校との連携強化推進委員会において、両校の高度化再編や学科改組について検討を行った(5月・1月・3月)。 ②高度化再編検討委員会WGにおいて、平成21年10月に教職員を対象とした新学科設置構想等のアンケート調査を実施し、そのアンケート調査結果を踏まえて、今後、本校の良さをアピールできる新学科設置構想等について、高度化再編検討委員会及びWGにおいて検討を行った。(12月～3月) ○専攻科の充実 ①専攻科の教育設備等の充実を図り、教育環境の向上を図るため、機構本部へのマスタープランの予算要求を含め検討を行った。 ○授業評価・教育改善 ①全クラス(専攻科を含む)を対象に、全講義科目について授業アンケートを実施した。また、卒業・修了時にもアンケート調査を実施した。集計結果は、各教員及び各学科における授業計画並びに授業内容の見直し等に使用されている。 ②低学力問題を改善するための一般教科カリキュラム改訂及び進級認定・卒業認定制度について教務委員会で検討を開始した(10月)。 ③授業時間割り変更により放課時間が早まったことを受けて、上級生・専攻科生をTAとする新しい補習形態の試みを始め、自発的参加者が徐々に増加し、学習への意欲が増している。今後は未対応科目への取り組みが必要である。</p>	<p>&lt;企&gt; 授業アンケート等の授業評価や教育改善に関する取組について記載願います。</p>
<p>(3)優れた教員の確保(採用方針、女性教員採用、他機関との交流、FD等)</p>	<p>○採用方針 ①教員組織が多様な背景を持つ教員で構成されるよう、教員採用に際し、本校、高専機構、科学技術振興機構のホームページによる公募及び関係大学、民間企業に公募要領の送付を行うなど広く公募を行い、公募制の徹底を図る。 ②専門科目については、博士の学位を持つ者や職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など、優れた教育能力を有する者を採用するよう促進する。 ○他機関との交流 ①24年度に向けて、高専間で任期を付した人事交流を図り教員の活性化を図る。 ○FD ①高専機構の主催するFD研修会や教育研究集会等の各種研修に積極的に参加させることにより、教員の能力向上を図る。</p>	<p>○採用方針 ①商船学科の教員1名を公募する際に、本校、高専機構及び科学技術振興機構のホームページに募集要項を掲載、また、他高専、関係大学及び民間企業に募集要項を送付、更に関係学会誌に募集要項を掲載し広く公募に努めた。 ②一般科目において、修士の学位を有する者を1名を採用した。 ○他機関との交流 ①高専・両技科大学教員交流制度に基づき、平成24年度において、2年間の1名派遣及び1名受入が決定した。 ○FD ①高専機構高等専門学校教員研修、三重県高等学校生徒指導主事等研修会等の3件の研修会等に5名が参加した。今後も積極的に参加する予定である。 ○女性教職員の採用 ①一般科目に女性教員1名、事務部に女性事務職員1名を採用した。今後も女性教職員の採用に努める。</p>	<p>&lt;人&gt; 女性教職員の採用に関する取組を記載願います。  &lt;施&gt; ○女性教員採用のための環境整備は、施設整備も含むものと考えています。高専の経費にて更衣室整備等、女性教員のための施設整備を実施している場合は、その旨を記載して下さい。</p>

<p>(4)教育の質の向上・改善(自己点検評価、JABEE認定、共同教育、企業人材の活用等)</p>	<p>○JABEE認定 ①日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定審査に向けて調査・検討を行う。 ②STCW条約に基づく資質基準を維持する。 ○共同教育、企業人材の活用 ①鈴鹿工業高専との連携により、実践的英語教育と国際交流活動を実施する。 ②産学官共同教育の一環として、海技技術者、商品開発及び最先端技術などの分野で現職並びに退職技術者による企業技術者等活用プログラムを実施する。</p>	<p>○JABEE認定 ①昨年度、専攻科のJABEE認定について、各教員への聞き取り等検討会を開催した。引き続き議論を継続する。 ②STCW対策委員会は、資質基準システム運用マニュアルに基づく、教育マネジメントシステムの運用に関する検討を行い、管理責任者へのマネジメントレビューを実地し、教育システムが問題なく運用されていることを確認した(3月)。 ○共同教育、企業人材の活用 ①鈴鹿工業高専との連携として、鈴鹿工業高専主催のオハイオ州立大学での研修募集を本校で、本校主催のシンガポールMELクルーズ乗船実習の募集を鈴鹿工業高専で行ったが、参加費用や時期の問題でいずれも参加希望者は無かった。 ②電子機械工学科4年生を対象に、地元企業で製品安全の基礎、評価業務を担ってきた技術者に講師を依頼し、エコ環境、測定設備、測定環境及び安全認証を中心に、技術者としての環境・安全教育を実施した(7月)。 ③制御情報工学科、生産システム工学専攻科生を対象に、医療システム開発経験者と安全設計に関わるコンサルテーション等を行っている企業技術者に講師を依頼し、実務的なソフトウェアを開発するための、マネージメント手法、国際規格に基づく安全で品質の高いセキュアシステムの開発手法等についての講座を実施した(7月)。</p>	
<p>(5)学生支援・生活支援(メンタルヘルス、生活支援、キャリア教育等)</p>	<p>○メンタルヘルス、生活支援 ①学生相談室に配置された臨床心理士(非常勤)と連携して学生に対する心のケアの充実を図る。 ②新入生を対象としたカウンセラーによる心の自己管理に関する講演及びYG性格検査を実施する。 ○生活支援 ①入寮希望者の増加傾向を考慮し、収容定数及び居住室の増加、施設改善等の計画を策定する。 ②授業料免除や奨学金制度について、専用の学内掲示板を設けるとともに、ホームページ等によって学生及び保護者への周知を図る。 ○キャリア教育 ①就職活動に備え、外部講師を招いて就職ガイダンスを開催する。また、必要に応じて会社説明会に出席させる。</p>	<p>○メンタルヘルス、生活支援 ①学生相談室に各学科選出の教員5名、看護師1名、臨床心理士2名(非常勤)を配置し対応していたが、相談件数が増えたため8月に相談室員1名(非常勤・保健師)を増員し、学生の心身のケアの充実を図った。相談件数は、平成22年度の534名から平成23年度は968名に増加した(昨年度比81%増)。 ②新入生(125名)を対象にYG性格検査を実施し、担任及び教科担当教員並びにカウンセラーが、注意すべき点の把握・共有を行っている。 ○生活支援 ①入寮希望者の増加に対応するために、内部改修工事を実施し寮室4室を増設した。今後も入寮希望者の動向を注視し、学生寮の整備計画を見直ししつつ、学生生活の支援を図る。 ②授業料免除や奨学金制度について、「ホームページ」、「学生便覧」等によって学生及び保護者への周知を図った。 ○キャリア教育 ①教員が積極的に企業訪問を行い、学校と企業の連携を深め、求人の継続的確保を図った。三重県新卒応援ハローワーク等から講師3名を招聘し、4年生を対象とした就職ガイダンスを開催した(2月)。 ○営繕事業 ①夏季の暑さ対策を目的として、学生寄宿舎に空調機用の電源工事を実施し、安全で快適な寮生活を提供する基盤が整った。なお、平成24年6月までに空調機本体の設置も決定している。 ②学生寄宿舎の食堂屋根の老朽化が著しいため、食堂屋根の改修工事を実施し、安心安全な寮環境を提供した。 ○図書館及び寄宿舎の整備 ①図書館の回転式書棚は、地震時に転倒する恐れがあるため、一部固定式の書棚に変更し、安全対策を講じた。 ②学生寄宿舎における留学生の生活支援を目的として、洋式トイレ、シャワー室等の設置工事を実施し、留学生の住環境の改善を図り、受け入れ態勢を整えた。</p>	<p>&lt;施&gt;①23年度営繕事業にて、空調機電源整備と食堂屋根の改修を実施しています。本事業は環境改善整備による生活支援等と捉えていますが、記載がありません。貴高専では本事業をどのような整備と位置付けているのでしょうか。 なお、機構の年度計画においては、本事項で図書館及び寄宿舎の整備を整備計画に基づき推進すると記載しています。 ②上記に限らず、高専の経費にて実施した図書館及び寄宿舎の整備や整備計画の検討状況等についても記載するようにして下さい。</p>

<p>(6)教育環境の整備・活用(施設マネジメント、教育環境充実、環境配慮、寄宿舎整備等)</p>	<p>○施設マネジメント ①校舎・実験施設等の老朽度・狭隘化・耐震性等を調査し、それを施設整備計画に反映させ、整備又は予算要求を行う。 ○教育環境充実 ①白菊寮の有効利用のための改修について、予算要求を行う。</p>	<p>○施設マネジメント ①営繕事業として、夏季の暑さ対策を目的として、学生寄宿舎に空調機用の電源工事を実施し、安全で快適な寮生活を提供する基盤が整った。また、学生寄宿舎の食堂屋根の老朽化が著しいため、食堂屋根の改修工事を実施し、安心安全な寮環境を提供した。なお、施設環境整備委員会を開催し、施設整備計画の見直しを図り、寄宿舎改修他4件について平成24年度の営繕予算要求を行った。 ○教育環境充実 ①白菊寮の再利用計画について、船舶職員養成支援センターを主たる用途として、施設整備費で要求したが、改修規模、用途について見直すことになった。現在、施設環境整備委員会の元に設置した部会において、平成25年度概算要求に向けて、全面取り壊しも視野に入れつつ、縮小案を検討している。</p>	<p>&lt;施&gt;○白菊寮の整備について、見直しを求めていますので、その進行状況を明記して下さい。 ○23年度営繕で実施している事業は全て、教育環境の整備・活用に係る事業ですので、明記願います。 ○施設マネジメントに基づき、省エネ化等の検討をされているのであれば、その旨も明記下さい。</p>
<p>【2. 研究に関する事項(外部資金獲得、産学連携、知財管理等)】</p>	<p>○外部資金獲得 ①科学研究費補助金の応募・採択件数の増加を図ることを目的に、応募のための説明会を開催する。 ②地域で開催される研究発表会、協議会、研修会等に積極的に参加し、地域社会のニーズ等の情報収集を行う。 ○産学連携 ①産学官の交流会に積極的に参加し、地方自治体、法人、民間企業等からの技術相談に応じるとともに、受託研究・共同研究を積極的に行う。 ○知財管理 ①知的財産に関する講習会を開催する。</p>	<p>○外部資金獲得 ①文部科学省産学官連携ODによる科学研究費補助金説明会(TV会議システムを利用)を鈴鹿工業高専との合同で開催した(9月)。今年度の申請件数は15件(26%)であり、次年度は更に申請件数の増を図る。 ②「大学サロンみえ」、「みえメディカルバレー推進会議」及び「みえ産学官プラス金融機関連携会合」等に積極的に参加し、大学、企業等と地域社会のニーズ等の情報収集を行った。 ○産学連携 ①「みえ研究交流フォーラム2011」に参加し、教育・研究活動の紹介を行うと共に、企業技術者との情報交換を行った(11月)。研究シーズ等を配付し情報交換を行ったことにより、今後、共同研究、受託研究及び技術相談の増が期待される。 ②鈴鹿工業高専に配置された文部科学省産学官連携コーディネーターにより、連携校である本校との両地域に密着した活動を展開し、両校のシーズ情報の提供、地域企業のニーズ情報の収集等を実施し、共同研究、受託研究などを積極的に行い、外部資金獲得の増を図った。 ○知財管理 ①発明等に係る取得方法及び管理については、産学官連携コーディネーターによる相談体制が確保されている。また、今後競争的資金取得説明会等において啓発していく。</p>	

<p>【3. 社会との連携、国際交流等に関する事項(地域技術者育成への貢献、理科教育支援、卒業生ネットワークの構築、国際交流協定の締結、学生の海外派遣、留学生の受入等)】</p>	<p>○地域技術者育成への貢献  ①鳥羽商工会議所、伊勢市産業支援センター等との産学官連携を推進するために、相互訪問等により活発にニーズ、シーズの情報交換を行う。  ○理科教育支援  ①小中学生の理科・科学技術に対する関心を高めるため、フェスタ等の地域イベントに出展する。  ②鳥羽市・伊勢市・志摩市の教育委員会及び海の博物館との連携により、中学生を対象とした科学技術振興機構SPP事業「アマモ場から知る、伊勢湾の昔、今、未来」を実施し、理科・科学技術に対する興味・関心と知的探究心等の育成を図る。  ○卒業生ネットワークの構築  ①本校の諸行事やPR活動において、同窓会との強力な連携を継続する。  ②同窓会との連携により、日本財団助成事業である「海の国『日本』を学ぶ」を、伊勢市、鳥羽市、志摩市の小・中学生を対象に、昨年に引き続き開催予定。  ○国際交流協定の締結  ①シンガポール・マリタイム・アカデミー(平成20年8月26日交流協定を締結)との国際交流の推進に努める。  ○学生の海外派遣  ①他機関等との連携を図り、国際交流の推進に努める。  ○留学生の受入  ①留学生については、日本文化施設の見学会や留学生交流会などを企画し参加させる。</p>	<p>○地域技術者育成への貢献  ①「研究シーズ集2011」を作成した(10月)。文部科学省産学官連携CD等により鳥羽商工会議所、伊勢市産業支援センター及び企業訪問等を行い、ニーズ、シーズの情報交換を行った。徐々にではあるが、共同研究、受託研究等の相談が増えつつある。  ○理科教育支援  ①みえ次世代人材育成応援ネットワーク主催の「子育て応援！わくわくフェスタ」に、「身近にある自然を体験しよう!」のテーマで出展した(1月)。同フェスタに2日間で約1万2千人が訪れ、本校のブースも大勢の親子で賑わい、科学をより身近に感じている様子がうかがえた。  ②科学技術振興機構SPP事業「アマモ場から知る、伊勢湾の昔、今、未来」を、練習船「鳥羽丸」、池の浦湾及び「海の博物館」において実施し、小・中学生21名、保護者9名の参加者があった(8月)。平成24年度事業に向けて、科学技術振興機構の科学コミュニケーション推進事業(活動実施支援)に2件申請を行った。  ○卒業生ネットワークの構築  ①平成22年4月に校内に同窓会事務局を設置し、緊密な連携を図っている。  ②同窓会伊勢志摩支部主催の「故郷の海を愛する会」(日本財団助成事業)に協力して見学会「練習船鳥羽丸で行く造船所見学と故郷の海・山・川」(7月)、講演会「商船学校の歴史・船と海の話」(12月)を開催し、小中学生99名の参加があった。  ○国際交流協定の締結  ①シンガポール・マリタイム・アカデミーと教育・研究上の協力と学術交流の促進を図るため、国際交流協定締結の更新(平成23年8月23日、5年間)を行った。  ○学生の海外派遣  ①九州・沖縄地区の高等専門学校との共同開催であるシンガポールポリテクニク校語学研修に4名が参加した(8~9月)。  ②鈴鹿工業高専との連携によりシンガポールMELクルーズ乗船実習に16名が参加した(7月・9月・3月)。  ③五商船高等専門学校とハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとの交流協定に基づく、国際インターンシップに3名が参加した(3月)。  ④高専機構主催の海外インターンシップ(フィリピン ツネイシホールディングス)に専攻科生1名が参加した(3月)。  ⑤熊本高専主幹のシンガポール・リパブリック・ポリテクニクで開催の国際プログラミングコンテストに2名(本科生・専攻科生)が参加した(3月)。  ○留学生の受入  ①本校初の女子留学生1名をモンゴルより受け入れた。日本の学習・生活支援のため、留学生4名に対し3名のチューターを委嘱した。また、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行等を実施し、旅行には日本語教育担当教員も同行した。  ②学生寄宿舎における留学生の生活支援を目的として、洋式トイレ、シャワー室等の設置工事を実施し、留学生の住環境の改善を図り、受け入れ態勢を整えた。</p>	<p>&lt;施&gt;○留学生受け入れ拡大に資する施設整備を実施している場合は、その旨を記載して下さい。</p>
---	---	---	---

<p>【4. 管理運営に関する事項(危機管理体制、教職員の服務監督・健康管理、職員の研修、人事交流等)】</p>	<p>○危機管理体制  ①危機管理体制の組織を整備するとともに、危機管理規則の制定及び危機管理マニュアル作成の検討を行う。  ②鳥羽市等との防災協定に基づき、合同訓練を実施する。また、地震対応マニュアルを踏まえた校内防災訓練を実施する。  ○教職員の服務監督・健康管理  ①教職員・学生の健康管理、安全管理を徹底するため、必要に応じて、臨時又は特別健康診断を実施する。女性教職員の健康保持を増進させるため、子宮頸がん検診を実施する。また、年1回産業医による健康状態の把握及び健康相談を実施する。  ○職員の研修  ①事務職員の資質向上のため、国立大学法人等において開催される研修会等に積極的に参加させる。  ○人事交流  ①事務職員については、国立大学法人等との人事交流を積極的に進行。</p>	<p>○危機管理体制  ①危機管理規則を5月に制定し、危機管理体制の組織を整備した。また、海抜及び避難場所までの距離を表示した津波避難標識を校内26か所に設置した。  ②防災協定に基づき9月に志摩市の総合防災訓練に参加し、練習船「鳥羽丸」を利用した救難支援物資の搬送訓練を行った。3月11日の東北大震災の教訓を踏まえた地震対応マニュアルの再検討を行っており、それに則った校内防災訓練を実施した。  ○教職員の服務監督・健康管理  ①教職員の健康管理のため、5月に定期検診、9月に胃検診を行った。また、7月から12月の間に、女性教職員に対し、子宮頸がん、乳がん検診を実施している。なお、3月に全教職員を対象とした産業医による健康診断・指導を実施し、その結果を管理者に通知し、管理者からも健康指導を実施した。  ○職員の研修  ①東海地区国立大学法人等リーダーシップ研修他20件の研修会等に25名が参加した。今後も積極的に参加し事務職員の資質向上を図る。  ○人事交流  ①平成23年度に三重大学から新規に1名受入、現在、人事交流者は5名(受入4名、派遣1名)となっており、今後も近隣の関係機関と積極的に人事交流を行い、事務の活性化を図る。</p>	
<p>【5. 業務運営の効率化に関する事項(一般管理費の縮減、随意契約の見直し等)】</p>	<p>○一般管理費の縮減  ①管理的業務の委託契約の見直し、省エネルギー対策による光熱水量の節減等の取組により管理的経費を抑制する。</p>	<p>○一般管理費の縮減  ①庁舎等警備業務において、契約期間を複数年とした一般競争契約を実施し、経費の節減を図った。また、昨年度末に導入したデマンド監視装置から得られる棟別等の電気使用量を学内に配信し、節電を促した。  ○省エネ化の推進  ①廊下等の蛍光灯管球44本を省エネタイプに交換し、省エネルギー化を図った。  ②平成24年度営繕事業において、図書館の空調機が経年劣化が激しく、電気容量も大きいため、GHP式の空調機設置の要求を行った。</p>	<p>&lt;施&gt;○機構の年度計画では「施設・設備に関する計画」として整備計画に基づく整備の推進と省エネ化の推進が明記されています。貴高専にて23年度営繕等で実施している事業や検討内容等も計画に関連する事業ですので、明記を願います。</p>
<p>【6. その他】</p>	<p>○その他  ①三重大学、鈴鹿工業高専等県内の高等教育機関との包括連携事業を推進する。</p>	<p>○その他  ①平成23年度 鳥羽・鈴鹿寮生会役員合同研修会を本校練習船「鳥羽丸」を利用して実施。同研修会では、両校が培った寮運営の工夫を知ることができ、また、それぞれの寮生会が抱える問題について、異なった視点で意見交換ができた(11月)。  ②みえ産学官研究交流フォーラム実行委員会(三重大学)主催の「みえ研究交流フォーラム2011」に参加した(11月)。当日は、企業や団体、研究機関が260あまりのブースを開設し、6900人以上の来場者が訪れ活気に満ちた催しになった。本校のブースも学生のアドバイスにより実際にロボット操作などを体験してもらい、大変有意義な展示会となった。  ③鈴鹿工業高専とのTV会議システムを利用した科学研究費補助金説明会を開催した(9月)。両校の教員から研究計画調書の作成等について活発な質疑応答及び意見交換が行われた。</p>	